

高等学校教育課程の 意義と編成

科目コード	EC3703	担当教員	単位数	履修方法	配当年次
			2	R	2年以上
			吉井	宏	



■科目の内容

1999年3月、高等学校学習指導要領の全面的な改訂が行われ、専門教育の中に新たに「福祉科」が加わりました。またこれに先立って、98年には教育職員免許法が改定されました。そして改定に伴い「教職に関する科目」の中に「高等学校教育課程の意義と編成」が誕生しました。

高校福祉科の教員免許取得を希望する者にとっては基本となる科目です。そこで学習指導要領が示す教育課程とはどのようなものなのか、改訂の要点に注目しつつ、その編成について高等学校学習指導要領の総則に従って理解を深めていくことにします。

■到達目標

- 1) 「学校において編成する教育課程の意義」について明確に定義づけられる。
- 2) 「学校における教育課程編成の原則」について述べることができる。
- 3) 学習指導要領とはどのようなものか正しく説明できる。
- 4) 教育法規における「学校教育の目的や目標」の条文を誦（そら）んじている。
- 5) 教育基本法に関する基礎的知識（意義、条文内容、新旧基本法成立経緯等）をもち、その内容を解説できる。

■教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説・総則編』東山書房、2009年

■在宅学習15のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	改訂の経緯 (第1章総説 第1節)	学習指導要領が改訂された社会的背景と改訂の経緯について学ぶ。 キーワード：知識基盤社会、PI SA調査、中央教育審議会、教育基本法	知識基盤社会・グローバル社会の中で、我が国の子どもたちの課題が明確になり、学習指導要領の改訂が必要であると判断されました。ここでは新教育基本法の発布にも注意しつつ、改訂の経緯を確実に理解しましょう。
2	改訂の基本方針 (第1章第2節)	学習指導要領改訂の基本方針について理解する。 キーワード：生きる力、思考力、判断力・表現力、確かな学力、豊かな心、健やかな体	生きる力を支えるのは、確かな学力、豊かな心、健やかな体であると中教審は提言しましたが、新教育基本法等との関連で、それらがどのように学習指導要領に位置づけられたかを考えましょう。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
3	改訂の要点 (第1章第3節)	「学習指導要領解説 総則」に記載された改訂の要点を学ぶ。 キーワード：各教科・科目、単位数、履修等、時数、配慮事項	学習指導要領の「総則解説編」は学習指導要領全体に関する事項について述べたものであり、学習指導要領を補完する性質の文部科学省著作物です。従ってそこに書かれた内容については、十分に尊重して理解するようにしたいものです。
4	教育課程の意義 (第2章第1節)	学習指導要領上、教育課程はどのように定義づけられているか学ぶ。 キーワード：教育課程、教育課程編成	学校において教育課程を編成する上で、三つの要素があることに気付き、学校において編成する教育課程の意義を理解するようにしましょう。
5	教育課程に関する法令 (第2章第2節)	学習指導要領は教育課程の国家的基準であることを学ぶ。 キーワード：教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則	学習指導要領は教育課程の国家的基準であることから、教育関連法規との関わりが深いことを理解するとともに、なぜ学習指導要領が教育課程の国家的基準となるかを考える。
6	教育課程の編成及び実施 (第3章第1節①)	教育課程編成の主体は校長を中心とする学校にあること、また編成の原則を学ぶ。 キーワード：編成の原則、編成の主体	学校が編成する教育課程は、地域性や学校の実態に配慮しつつ、教育基本法以下の法規や学習指導要領に従って編成するものであることを理解することがポイントです。
7	課程・学科、心身の発達、生きる力 (第3章第1節②)	教育課程編成の配慮事項には、課程や学科、生徒の心身の発達があり、それらを考慮の上で生きる力を育成する必要があることを学ぶ。 キーワード：生きる力	教育課程を編成する上では、課程や学科の特色を考慮し、生徒の心身の発達についても配慮することで生きる力を育む必要があることを理解しましょう。
8	道徳教育、体育保健教育、体験的学習 (第3章第1節③)	道徳教育及び体育・健康に関する指導、体験的学習の指導に関して理解する。 キーワード：道徳教育、体験学習、総合的な学習の時間	道徳教育の目標及び体育・健康教育の目的、キャリア教育と体験的学習の関連など、一個の人間として学ばせる重要な課題であることに注目し、それぞれの教え方について深く考えるようにしましょう。
9	各教科・科目及び単位数 (第3章第2節)	単位の考え方を学び、卒業までに履修させる単位数や各学科共通の教科・科目等の標準単位数、学校設定教科・科目について学ぶ。	今回の改訂で示された教育課程の具体的な中身について学ぶ節です。各学科共通の教科・科目、教科以外の活動について熟知し、それが現代の高等学校のあり方とどのように関わるかを考えてみましょう。
10	各教科・科目の履修等 (第3章第3節)	必履修教科・科目の種類及びその単位数、また履修上の留意点などについて学ぶ。 キーワード：必履修教科・科目	専門学科や総合学科とはどのようなものか、教科・科目の履修という観点から見る必要がありますが、学びの中心は、すべての生徒に履修させる教科・科目を意味する「必履修教科・科目」です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	各教科・科目等の授業時間数 (第3章第4節)	年間授業日数及び週当たりの授業時数の制限のもと、各教科・科目以外にもHR活動、生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間などの授業時間数について学ぶ。	HR活動、生徒会活動、学校行事、総合的な学習の時間などが授業時間数との関わりでどのように設定されているか、細かな点にも注意して理解するよう努めましょう。
12	教育課程の編成・実施に当たったの配慮事項 (第3章第5節)	各教科・科目に関する事項の他、道徳教育や職業教育など、指導計画の作成段階から実施に至るまで、教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項について学ぶ。	教育課程を作成し実施するに当たっては、生徒指導や進路指導など学校生活のあらゆる場面・領域との関連を配慮しなければならないのですが、そのことをしっかりと理解することが、教育課程の意義と編成を理解する第1歩でもあることを知ってください。
13	単位の修得及び卒業の認定・通信制の課程における教育課程の特例 (第3章第6・7節)	単位の修得の認定、卒業までに修得させる単位数及び卒業の認定に関する規定を学ぶとともに通信制の課程における教育課程の特例を理解する。	単位の修得は、各教科・科目の目標に照らして満足がいくと認められたときに認定され、その積み重ねによって卒業も認定されます。ところが留学など、通常の形態以外にも履修及び修得の形態は様々であることを理解しましょう。
14	教育課程編成の手順と評価 (第4章)	教育課程を編成するには綿密な立案計画が必要であること、学校の教育目標との関連が深く関係することを学ぶ。また学校評価における教育課程評価についても学ぶ。	学校は、法及び学習指導要領に従うだけではなく、学校の教育目標に適合する教育課程を作成する必要があることを理解しましょう。また実施後については、常に学校評価との関連で教育課程の評価を行わなければならないことも理解しましょう。
15	中等教育学校等における教育課程の基準 (第5章)	中高一貫教育の形態には、中等教育学校のほかに併設型、連携型の中学校・高等学校もある。それぞれによって教育課程は異なり、その基準及び特例が必要であることを学ぶ。	中高一貫教育の3形態には、それぞれの事情に応じた特色があり、それは教育課程の編成に反映されます。そこで特徴についてよく理解すると同時に、教育課程の基準も特例を持つことを理解しましょう。

■レポート課題

1 単位め	学習指導要領上、教育課程とはどのようなものか、また教育課程編成の原則とはどのようなものか、まとめなさい。
2 単位め	学習指導要領改訂の基本方針をふまえて、改訂の要点をまとめなさい。ただし各教科・各科目等の改訂要点の細部については触れなくてよい。

■アドバイス

課題についてレポートを書くのに、最低、テキスト1冊があれば事足ります。ただし精読しなければいけません。

『高等学校学習指導要領解説・総則編』は、いうまでもなく2009年3月に公示された『高等学校学習指

『学習指導要領』の第1章総則について、文部科学省が解説を加えたものです。学習指導要領そのものではありませんが、これがないと学習指導要領が理解しきれません。

学習指導要領が各学校段階ごとに編纂されるようになって、もう随分年月がたちますが、この形式のまま総則や各教科・特別活動などの細部にいたるまで記述したとすると、膨大な紙数が必要となります。そこで詳述を避け、必要最低限だけを列記したのが現行の学習指導要領ということになります。しかしそれでは読者がさまざまに解釈してしまうおそれが生じます。そうなれば教育課程の基準であるという学習指導要領の基準性が揺らぐことになりかねません。ですから問題が起きないように、文部科学省は公式注釈書を作成する必要があったのです。そのようにして、解説編は学習指導要領が改訂されるたびに文部科学省自身の著作として発表されてきました。

冒頭で、この1冊を精読すればレポートが書けると述べたのは、そうした事情があったからなのです。ところが実際にテキストを開くと、字面は追えるのに結局何が書いてあるのかよくわからない、という声もしばしば耳にします。確かに意味がつかみにくい文章かもしれません。しかし焦らなくてください。真面目に取り組めば取り組むほど悩まされるかもしれません。しかし「読書百遍、意自ずから通ず」といいます。文章がどのような構成になっているかを把握しながら読み進んでみてください。学習指導要領はしばしば教員採用試験にも出題されます。それを意識してノートにまとめてみるのも良いでしょう。頭の中だけでは理解しにくいことも、書いてみると案外簡単にわかるということもあろうかと思えます。

ただ初めて教職を目指す方は、一見すると何でもないような用語にも十分気をつけてほしいものです。教科と科目の違いはおわかりですか。学校教育の目的と目標との違いについては大丈夫でしょうか。それどころではありません。肝心の「教育課程」の定義まで専門家によって見解の分かれるところです。教育課程は一般にカリキュラムの訳語として理解されますが、特別活動を教育課程には含めるがカリキュラムには含めないという考えがあります。このように厄介なものですから、気になる教育用語は、簡単な用語集などを横に置いてこまめに調べてみてください。

1単位め アドバイス

教育課程とはどのようなものかといっても、いわゆる教育専門書が教育課程をいかに定義づけているかをレポートせよと言っているわけではありません。あくまでも2009年に発表された学習指導要領ではどのように記していますか、ということなのです。しかしそうはいつでもまったくイメージが湧かないのも困りますから、まずは「教育課程」とはどのようなものか、その意味を理解してください。あまり高度な専門書を選ぶ必要はありません。辞書的な解釈だけでもよいのです。

さて、それが理解できたらよいテキストです。「第2章 教育課程の基準」を開いてみましょう。「第1節 教育課程の意義」では、学校がその学校の教育課程を編成するには、まず教育課程に関する法令や学習指導要領に基づく必要があると説いています。私立学校といえども公教育に携わるからには、国が示す学校教育の目的や目標を逸脱することは許されません。その範囲内で学校独自の目的や目標を定める必要があるのです。次に学校は学校独自のそれらを達成するために、その学校にふさわしい指導内容を選択し組織する必要があるのですが、これも国が示す範囲を守る必要があるということです。そうであれば「第2節 教育課程に関する法制」も、レポートを書くに当たって無視することはできないでしょう。

さあ、ここまでがおよそレポートの前半の課題「教育課程とはどのようなものか」についての解説ということになります。第2章をまとめたら一気に第3章に読み進みましょう。第3章は「教育課程の編成及

び実施」について書いてありますが、あまりここで解説しすぎてもみなさんが考える余地を奪ってしまいそうですから、一言だけ触れておきます。レポート後半の課題「教育課程編成の原則とはどのようなものか」については、第3章全体をまとめるよう言っているのではありません。「第1節 教育課程編成の一般方針」の中の「1 教育課程編成の原則」に注目すればよいのです。これと第3章を上手に組み合わせてください。

以上、テキストでいえば第2章および第3章第1節「1 教育課程編成の原則」をじっくり読んで、まとめてみてください。

2単位め アドバイス

この課題はテキストの第1章をまとめればよいのですが、要点は改訂の基本方針をどのような形で実現化しようとしているのか、理念と具体的な改訂内容との関係を十分見極めてレポートしなければならない点です。1単位めの課題と異なり、おそらく理解しやすい内容だと思いますが、第1節には「改訂の経緯」が書いてあります。改訂の背景となる3つの要因に触れていません。教育課程を改善しなければならない理由が書かれているのですから、この節をまとめることから始めてください。第2節以下が理解しやすくなるはずですが、ほかに第3章第2節、第3節1も大事です。

レポート課題には「ただし各教科・各科目等の改訂要点の細部については触れなくてよい」と書きましたが、<福祉>はしっかり覚えて下さい。みなさんが取得を希望している教科だからです。

なお、1単位め、2単位めのレポートを深めるためには、ここまでの記述で掲げてきた章・節だけでは足りません。全体を読み通してはじめて理解できることもあるはずですが、是非この一冊を最初から最後まで丹念にお読みください。

■科目修了試験 評価基準

科目修了試験では、到達目標やレポート課題記載の内容について問うので、題意を把握し、内容を理解し論述しているかについてをポイントに採点します。

■参考図書

安彦忠彦編著『高等学校新学習指導要領の展開・総則編』明治図書出版、2009年

安彦忠彦編『高等学校学習指導要領 改訂のピンポイント解説』明治図書出版、2009年

天野正輝編『教育課程・重要用語300の基礎知識』明治図書出版、1999年